

兵庫 県
保険医協会

西宮 支部
芦屋 ニュース

No. 360
2021・6・25

発行

連絡先

〒662-0832

兵庫 県 兵庫 県 兵庫 県
兵庫 県 保険 医 協 会 西 宮 ・ 芦 屋 支 部

兵庫 県 西 宮 市 甲 風 園 一 一 一 五 法 貴 皮 膚 科 内

兵 庫 県 保 險 医 協 会 電 話 〇 七 八 (三 九 三) 一 八 〇 一

第6回新型コロナウイルス研究会 (感想文)

神戸のコロナ感染状況からワクチンの実際まで詳しく報告

「明日からの診療に役立つ内容だった」

西宮・芦屋支部は5月15日、第6回新型コロナウイルス感染症研究会「新型コロナウイルス感染症Update(2021年5月編)」をオンライン併用で開催。神戸市立医療センター中央市民病院感染症科黒田浩一先生が講師を務め、医師44名(会場参加5名、オンライン視聴39名)が参加した。司会を務めた西宮市・伊賀内科循環器科の伊賀幹二先生の感想文を掲載する。

2021年5月現在、新型コロナウイルス感染症の原因は変異株にほとんど置き換えられ、その特徴をまとめて話していただきたく神戸中央市民病院の黒田先生に3回目の講演をお願いした。

ウイルス量は発症前2日くらいから発症後2日目くらいがピークであるので、患者が無

症状であっても、感染していると思っ
て常に感染防護が必要であることもよ
く理解できた。変異ウイルスがメイン
となってきたこと2〜3か月で若い人
の重症例が増えたのは事実だが、感染
者数が増えたというのが一番の原因で、
臨床像としてはそれほど変わらないと
のことであった。

神戸市での大変な状況もよく理解で
き、自宅療養患者のなかで病院までた
どりついたが救急外来でCPA(心肺
停止)であった例は、統計上では自宅
療養死にはならないということをお聞
きました。感染して酸素飽和度が90%以
下でも、入院やホテル療養ができない
現状では、これらの過去のデータ分析
から待機患者に対する包括的な方針を
至急に決める必要性を感じた。

最後に、現行のファイザーワクチン
にくわえて、アストラゼネカやJ&J
のワクチンについても言及された。感
染症の専門医師として先生は、強くワ
クチンの接種をすすめられた。副作用
として、特に2回目の接種で若い人
では熱や倦怠感が出現する頻度が高い
のことであった。折しも、西宮では5
月12日からコロナワクチン接種を診
所で行うとの市政ニュース発表から、
各診療所で電話が鳴りやまず大混乱に
陥った。
有事と考えられる現在、西宮市医師
会、西宮市、実地医師が目標を共有し
たうえでのシステム再構築の必要性を
強く感じた。

【西宮市 伊賀内科・循環器科 伊賀幹二】

参加者の感想

・「明日からの診療に役立つ内容であつた」

・「最前線で診療にあたられながらきつちりと文献で情報収集もされておられ、頭が下がるのみです。新型コロナウイルス感染症全体を確認整理することもでき、よい機会となりました」

・「早く集団免疫が成立することを祈っております」

世話人会だより

西宮・芦屋支部は5月28日(金)に西宮医療会館で世話人会を開催。3人が参加した。

【I. 最近の診療経験の交流】

COVID-19診療、新型コロナウイルスワクチンについてなど

【II. 報告】

①第5回新型コロナウイルス感染症研究会(4・17)

②第6回新型コロナウイルス感染症研究会(5・15)

③ジェネリック医薬品問題研究会(5・22)

【III. 予定・企画】

①当面延期企画

・ 近年開業医懇談会

・ 認知症外来診療経験交流会

・ 健康と医療について語り合う会

②支部設立40周年記念企画(創設期からの先輩医師インタビュー・記念小冊子作成の検討など)

③その他(ストップ・ザ・アスベスト西宮の会の取り組み報告など)

【IV. 協会・保団連行事】

①第53回総会(6・20)

②第36回保団連医療研究フォーラム(in岐阜)(9・19〜20)

③第30回日常診療経験交流会(10・31)

*世話人会の日程は毎月第4金曜日です。

次回は7月30日(金)に予定しております。支部についてのご意見や企画案などをお寄せください。



市内の感染状況について報告する黒田先生



第1回から司会を務める伊賀先生

ジェネリック医薬品問題研究会 (感想文)

後発医薬品の選び方を分かりやすく解説



新型コロナウイルス感染拡大防止のため会場定員は少人数で実施した

後発医薬品を選ぶコツは、薬剤師が所有している「ブルーブック」を活用するのが良い。その選択肢の一つであるオート・ジェネリックは、オンスライズド・ジェネリックのうち1種類で、これは生物学的同等性試験の必要が無く、その他の1種類にはこの試験が必要である。内用剤における後発医薬品の選び方は、①オート・ジェネリックを選ぶ、②オンスライズド・ジェネリックを選ぶ、などを教わった。



参加者からの質問に答える大谷先生



司会を務めた支部長の法貴先生

最後に処方医による後発医薬品の選び方は、①先発医薬品から使用を開始する、②後発医薬品への切り替えは薬剤師を活用する、③地域フォーミュラーの作成、を掲げられて講演を締めくくられた。1時間半の長時間に渡る講演は、聴講者に非常に参考になるものであった。大谷先生は、薬剤師相手の講演が多く、医師相手の講演を非常に喜んでおられたことを、記しておく。

【西宮市 法貴皮膚科 法貴憲】

- ・参加者の感想*
- ・「新しい情報をたくさん得られた有意義な研修会だった」
- ・「今ジェネリック医薬品は安定供給を主に選んでいるようだが、今日のお話でジェネリックからジェネリックに変更はリスクが大きくなること、慎重に動かなければならないことに気付かされました」
- ・「薬剤師の立場から非常に知りたい情報満載でした」
- ・「最近自主回収薬が多く困っており、オートジェネリックを選びたいが、ない薬品も多く存在します」
- ・「最近忙しさに加え、ブルーブックや品質情報検討会の結果を見る事が少なくなってしまうので、深く反省しました」

西宮・芦屋支部は5月22日、ジェネリック医薬品問題研究会「ジェネリック医薬品の正しい選び方を改めて考える」をオンライン併用で開催。東京都の佐々木研究所 研究事務室長の大谷道輝先生が講師を務め、医師、薬剤師など合わせて38人(会場8人、オンライン視聴30人)が参加した。司会を務めた西宮市・法貴皮膚科の法貴憲支部長の感想文を掲載する。

小林化工㈱の抗真菌薬への睡眠薬混入問題を契機に、西宮・芦屋支部において、薬剤師の先生からジェネリック医薬品に関する講演を聴きたいとの要望があり、私の旧知の大谷道輝先生にお願いをした。

大谷先生は以前の東京通信病院の頃より、ジェネリック医薬品の功罪の問題に取り組みされており、非常に詳しい話を聴くことができた。厚労省が掲げる後発医薬品の数値目標は80%で、2020年9月には78・3%にまで達している。しかし、後発医薬品に対する医師の不信感は根強く、小林化工㈱の問題で益々、その傾向は強くなっている。

薬剤の種類によっては、例えば抗てんかん薬のように、後発医薬品に変更しにくいものもあり、注意を要する。また先発医薬品のみ特定の効能・用法を有する薬剤や、アセトアミノフェンのように、後発医薬品しか無い薬剤が存在することを教わった。

ステロイド軟膏は、基剤中の濃度が半分以下のこともあるので、気を付けた。軟膏やテープ剤などでは接触皮膚炎にも注意を要する。また、外用剤における後発医薬品の選び方は、①2003年以降の承認製品を選ぶ、②点眼、吸入剤は2016年以降の承認製品を選ぶ、などを教わった。

健康情報 テレホンサービス

0120-979-451 (24時間・通話料無料)

★3分間程度の開業医の手作りの健康・医療情報を放送しています。

★インターネットでもご覧いただけます。過去の放送分もキーワード検索できます。

URLは、<http://www.hhk.jp/>

左下のバナー「健康情報テレホンサービス」をクリック。

7月のテーマ

月曜日	おねしょと子どもの自立
火曜日	介護を充実させ個人にあったサービス
水曜日	B型肝炎のはなし
木曜日	水泳と耳鼻科の病気
金土日	乳房外パジャット病とは